

CMSI Seminar オーガナイザー

加藤 大 (薬学系研究科 GCOE 支援)

去る2011年5月20日（金）、薬学部総合研究棟E10セミナー室にてCMSI-GCOEセミナーが学内・外の参加者を集めて開催されました。本セミナーは2008年7月より実施されているグローバルCOEプログラム「学融合に基づく医療システムイノベーション（CMSI）」（拠点リーダー：片岡一則教授）の一環として企画、開催されています。

今回のセミナーでは、アメリカ合衆国National Institute on Aging, National Institutes of HealthのLaboratory for Clinical InvestigationよりIrving W. Wainer教授をお招きし、“From bedside to bench and back: Reexamining the “Ketamine Paradigm” in the treatment of pain and depression”という演題でお話しいただきました。

講演では、麻酔薬として知られるケタミンの作用についての最近の研究を紹介されました。ケタミンは、光学異性体であり、さらに体内の酵素によって複数の代謝物に変換されることから、教科書に記載されているNMDA受容体の拮抗薬としての作用以外の効果を示すことがあることを複合性局所疼痛症候群（Complex regional pain syndrome, (CRPS)）の患者の測定結果を例に紹介されました。

NMDA受容体は、うつ病やアルツハイマー病など現在の我が国で対策が急務となっている疾患に関連をすることから、非常に興味を集めており、今後ケタミ

ンの研究がこれらの疾患の治療につながる可能性があることを熱く紹介されました。

本セミナーには教員、学生が多数参加に加え、学外の教員や企業からの参加者もあり、セミナー室もほぼ満席となりました。セミナー後の議論も活発に行なわれ充実したものとなりました。

